エコアクション21
認証番号 0011852

環境経営レポート

2024年度

〔対象期間:2024年4月～2025年３月〕

KDK 加藤段ボール株式会社

野田工場・いわき工場・須賀川工場・藤沢工場

作成:2025年4月30日

CONTENTS

会社概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Top Message、経営理念 ・・・・・・・・・・ 4

環境方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

実施体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

環境経営目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-8

環境経営活動計画 ・・・・・・・・・・・・・・ 9

当社の活動実績と評価 ・・・・・・・・・・・・ 10

環境経営活動計画の実績 ・・・・・・・・・・ 11

当社の活動とSDGsとの関連性 ・・・・・・・ 12

環境への取り組み ・・・・・・・・・・・・・・ 13

環境保護への取り組み ・・・・・・・・・・・・ 14

社会貢献活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

環境関連法規 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

代表者による全体の評価と見直し ・・・・ 17

会社概要

会社名/	加藤段ボール株式会社
創業/	昭和３９年５月
事業内容/	段ボールｹｰｽの製造販売、印刷化粧箱及び緩衝材、 その他梱包資材一式販売
代表者/	代表取締役社長　堀井　徹
URL/	https://www.kato-dan.co.jp
環境活動期間/	2024年4月1日～2025年3月31日

対象範囲（認証・登録範囲）/所在地/

本社・野田工場	千葉県野田市木間ケ瀬5367-1
いわき工場	福島県いわき市小名浜字芳浜11-71
須賀川工場	福島県岩瀬郡鏡石町大宮360-18
藤沢工場	神奈川県鎌倉市関谷1718

環境管理責任者/	代表取締役社長	堀井　徹
環境担当/	取締役　総合企画部長	鈴木　健一
事務局担当/	総合企画部係長	片見　由紀子

売上高/	3,752百万円(2024年度実績)
従業員数/	136名
延べ床面積/	14,381㎡

《いわき工場　太陽光発電設備》

Top Message

当社は、1964年(昭和39年)、木箱製造業から段ボール製造業へ転換し、『信用第一主義』を掲げて、創業60年を迎えることができました。

創業以来、『段ボール事業による地域貢献』という理念のもと、「挑戦し続ける」「いつもお客様に寄り添う」気持ちを持って、永続的にこれからの社会の発展に貢献し、『夢あふれる未来』創りの一翼を担っていくことを目指してまいりました。

1916年(平成28年)には、段ボール最大手レンゴーグループ入りを果たし、紙器・軟包装・重包装など段ボール以外の事業とのスムーズな連携・対応力・ネットワークなどが拡充されました。

現在、環境や社会のさまざまな課題を認識し、自社にとどまらずお客様・お取引先・地域社会などのステークホルダーと協力し、取り組みを推進することで、バリューチェーン全体で持続可能な社会の形成を貢献していくことが重要となっています。

当社主力製品である段ボールは、高いリサイクル率があり、素材として土へも還る環境適応型製品でもあります。それだけにとどまらず、さまざまな提案を継続し、より環境に適した活動を継続してまいります。

2024年には、いわき工場にて、太陽光発電設備を導入し、新棟すべて電気設備をLED・オール電化と致しました。

今後も、企業責任として環境と社会に最大限の配慮をしながら事業活動を行っていきたいと考えています。

代表取締役社長　　堀井　徹

経営理念

『段ボール事業による地域貢献』この理念のもと、段ボール事業を中核とし、「挑戦し続ける」「いつもお客様に寄り添う」気持ちを持って、永続的にこれからの社会の発展に貢献し、「夢あふれる未来」創りの一翼を担っていきます。

環境方針

〈基本理念〉

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効活用が人類共通の重要課題と考えています。
段ボール製品の製造等の事業活動における、環境負荷の低減や、環境に配慮した製品の供給を通して、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

〈基本方針〉

1．環境関連法令の遵守や当社が約束したことを守ります。

2．重点実施項目

① 地球温暖化対策の推進
電力・自動車用燃料・LPG等の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減。

② 資源の有効利用の推進
資源の利用を最小限に抑えるとともに、再生材などの環境配慮素材を積極的に利用する。

③ 産廃物の低減と有効利用の推進
廃棄物の発生を抑制し、再利用、再資源化により最終処分量を低減する。

④ 環境に配慮した製品の供給
社会的課題を起点とした、より環境に配慮した製品を供給する。

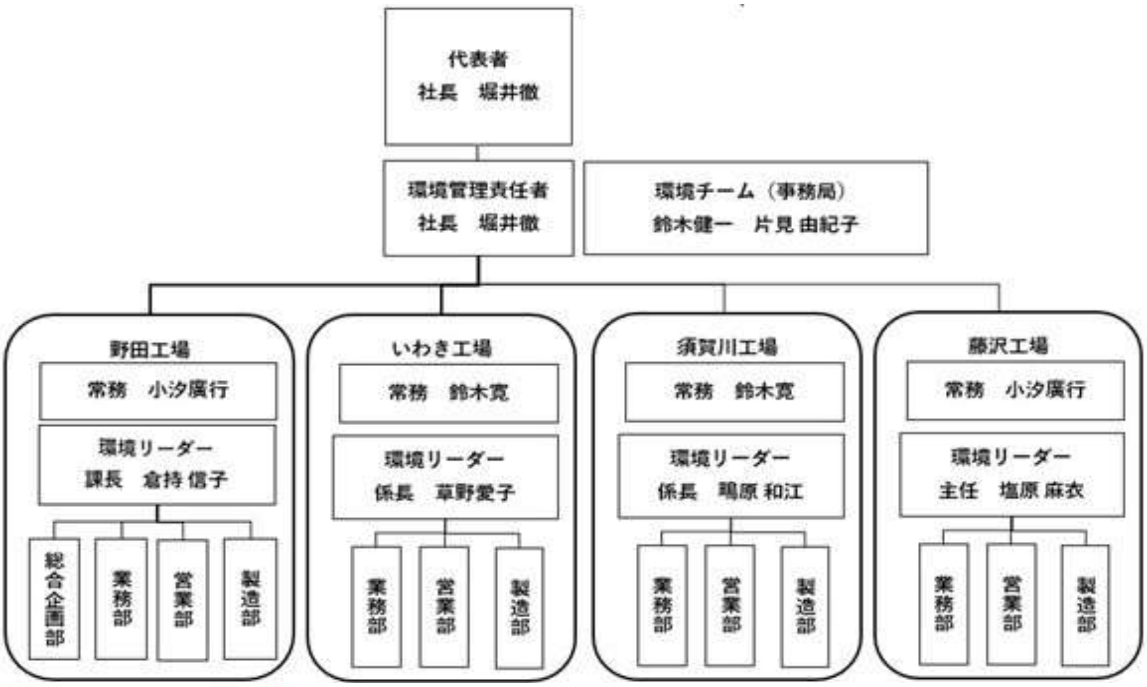
⑤ ステークホルダーとの協動関係構築
環境意識を高めるとともに、地域社会との共生の取り組みにより、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを図る。

3．環境方針は全従業員に周知するとともに公表します。

制定日：2013年11月11日
改定日：2024年 6月 25日

代表取締役
堀井 徹

実施体制



	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命
環境管理責任者（社長）	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認 ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動レポートの確認
環境チーム	・環境活動の取組結果を代表者、環境管理責任者へ報告 ・環境管理責任者の補佐、EA21の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
工場長・環境リーダー	・自工場における環境方針の周知 ・自工場の従業員に対する教育訓練の実施 ・自工場に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自工場に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自工場に想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自工場の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
各部門（一般社員）	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標

【第2次中期3ヵ年計画の全社指標】

環境活動テーマ	項目	全社指標
電力の二酸化炭素削減	電力使用量	前年度の原単位(生産量当たり)を毎年1%削減
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	前年度の実績から毎年1%削減
	軽油使用量	前年度の実績から毎年1%削減
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG使用量	前年度の原単位(生産量当たり)を毎年1%削減
	灯油使用量	前年度の実績から毎年1%削減
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	前年度の実績から毎年1%削減
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	前年度の原単位(生産量当たり)を毎年1%削減
水使用量削減	水道水使用量	前年度の実績から毎年1%削減

全社指標に基づいた目標値を各工場ごとに設定する

【全社合計目標】

項目		単位	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			実績	目標	目標	目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	885,813	592,491 (※1) (※2 いわき工場は使用量把握)	586,565 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)	589,609 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)
	原単位	kWh/t	834.49	767.90 (※1) (※2 いわき工場は原単位把握)	760.22 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)	752.62 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	36,062.56	35,701.59	35,344.81	34,991.51
	軽油使用量	ℓ	5,999.82	5,798.69 (※3) (※4 須賀川工場は使用量把握)	5,740.47 (※3) (※4 須賀川工場は2024年実績を基に設定)	5,682.65 (※3) (※4 須賀川工場は2024年実績を基に設定)
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG使用量	kg	4,103.50	4,039.00	3,998.61	3,958.63
	原単位	kg/t	0.66 (※5)	0.65 (※5)	0.64 (※5)	0.63 (※5)
	灯油使用量	ℓ	2,994	2,964	2,934	2,904
二酸化炭素排出量		kg-CO2	592,502.92	431,001.71 (※1) (※2 いわき工場は排出量把握)	426,691.69 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)	422,424.77 (※1) (※2 いわき工場は2024年実績を基に設定)
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	1,509.78	1495.08	1480.13	1465.33
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	25,288	25,035	24,785	24,537
	原単位	kg/t	34.27	33.92	33.58	33.24
水使用量削減	水道水使用量	㎥	1,606.5	1,590.44	1,574.53	1,558.79
有害化学物質適切管理		−	月次使用量、購入量の把握			
グリーン購入の推進		−	グリーン購入を率先して実施			
製品への環境配慮		−	FSC認証製品の販売促進、適正運用			

※1　野田工場、須賀川工場、藤沢工場の合計
※2　いわき工場は2024年1月に太陽光発電や新設備を導入した新工場が稼働したため、2024年度の目標は排出量や使用量の把握とし、2025年度以降の目標は2024年度実績を基に設定する
※3　野田工場、いわき工場、藤沢工場の合計
※4　須賀川工場は2023年12月より社有車の１台を軽油使用車へ切り替えたため、2024年度の目標は使用量把握とし、2025年度以降の目標は2024年度実績を基に設定する
※5　野田工場のみフォークリフトでLPGガスを使用しているため原単位把握を行う
（他工場はガス給湯器でのみ使用しているため原単位把握を行わない）

〔各工場で使用する電力の排出係数〕

・野田工場　：　0.601kg-CO2/kWh　（北海道電力㈱令和2年度調整後排出係数）
・いわき工場　：　0.488kg-CO2/kWh　（東北電力㈱令和3年度調整後排出係数）
・須賀川工場　：　0.488kg-CO2/kWh　（東北電力㈱令和4年度調整後排出係数）
・藤沢工場　：　0.441kg-CO2/kWh　（東京電力ｴﾅｼﾞｰﾊﾟｰﾄﾅｰ㈱令和2年度調整後排出係数）

環境経営活動計画

○：対象　　—：対象外

環境経営方針	活動テーマ	環境活動実施内容	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素削減					
	実施内容	不必要な照明の消灯	○	○	○	○
		太陽光発電の有効活用	—	○	—	—
		空調の適温化/適度使用	○	○	○	○
		空調機フィルター定期的清掃	○	○	○	○
		生産工程の最適化	○	○	○	○
		PC電源一括コントロール	○	—	—	—
	中期計画	LED照明への更新	○	○	○	○
		省エネタイプエアコンへの更新	○	○	○	○
	自動車燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	エコドライブ等運転方法の配慮	○	○	○	○
	中期計画	車両更新時低燃費車選択	○	○	○	○
		運転チェックシート導入	○	○	○	○
	その他燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	フォークリフトの適正使用	○	—	—	—
		給湯器の適正利用	—	—	○	—
		防寒対策による灯油の適正使用	○	—	○	—
	中期計画	フォークリフトのバッテリー化への切替	○	—	—	—
		省ｴﾈﾀｲﾌﾟのｴｱｺﾝへ更新し灯油の使用削減	○	○	○	—
産業物削減	一般廃棄物の削減					
	実施内容	印刷物部数が最小になるよう考慮	○	○	○	○
		社内用印刷物の両面使用	○	○	○	○
		社内用文書の裏紙活用	○	○	○	○
		文書の電子化によるペーパーレス化促進	○	○	○	○
	中期計画	分別回収ボックスの適正配置	○	○	○	○
		納品の際の梱包、包装資材等の削減	○	○	○	○
		ペーパーレスFAXシステム導入	○	○	○	○
	産業廃棄物削減					
	実施内容	不良在庫防止の徹底	○	○	○	○
		作業ミスによる廃棄量の削減	○	○	○	○
	中期計画	塗料や洗浄剤等のタンク集約化	○	○	○	—
		水質汚濁法令基準より厳しい自主管理基準設定	○	○	○	○
水使用量削減	水道水の削減					
	実施内容	日常的な節水の励行	○	○	○	○
		生産工程において節水の励行	○	○	○	—
	中期計画	生産工程で使用する水の再利用	○	○	○	—
		バブルの調整による水量・水圧の調節	○	○	○	○
		雨水利用	○	○	○	—
化学物質削減	有害化学物質の適切な管理					
	実施内容	使用化学物質の把握	○	○	○	○
	中期計画	代替物質への切り替え	○	○	○	○
グリーン購入	グリーン購入の推進					
	実施内容	事務用品のグリーン購入	○	○	○	○
環境配慮	製品への環境配慮					
	実施内容	FSC製品販売促進	○	○	○	○
		PRTR物質の削減、代替	○	○	○	○
	中期計画	環境配慮製品の販売目標設定、計画的販売促進	○	○	○	○

当社の活動実績と評価（全社合計）

【評価】◎：110%以上達成、〇：100～109%達成、△：95～99%達成、×：95%以下の達成

項目		単位	2024年度（2024年4月～2025年3月			
			目標	実績（全社合計の数値）	評価	コメント
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	592,491 （※1）（※2 いわき工場は使用量把握）	933,058	－	いわき工場の使用量を把握した。
	原単位	kWh/t	767.90 （※1）（※2 いわき工場は原単位把握）	695.82	－	エアコンの切替、エアコンフィルターの定期清掃を行った。
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	35,701.59	35,066.25	〇	車両更新時にエコカーへの切替を行った。
	軽油使用量	ℓ	5,798.69 （※3）（※4 須賀川工場は使用量把握）	3,289.40	－	配送用トラックの外部委託化により、軽油使用量が減少。
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG使用量	kg	4,039.0	359.7	〇	LPGリフトからバッテリーリフトへ更新し、LPG使用量が減少。
	原単位	kg/t	0.65 （※5）	0.06 （※5）	◎	
	灯油使用量	ℓ	2,964	1,680	〇	使用量の記帳などの管理を行い意識向上。
二酸化炭素排出量		kg-CO2	431,001.71 （※1）（※2 いわき工場は排出量把握）	539,693.74	－	いわき工場の排出量を把握した。軽油、LPG使用量減により排出量減少。
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	1495.08	1505.85	△	5S活動を徹底的に実施することで削減につながる
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	25,035	25,053	△	ラップの薄物化が可能か検討。
	原単位	kg/t	33.92			
水使用量削減	水道水使用量	㎥	1,590.44	1,718.50	×	印版洗浄や手洗い蛇口のノズルを検討。
有害化学物質適切管理		－	月次使用量、購入量の把握	月次使用量、購入量を把握した		
グリーン購入の推進		－	グリーン購入を率先して実施	グリーン購入を率先して実施した		
製品への環境配慮		－	FSC認証製品の販売促進、適正運用	FSC製品を適正に運用し販売した		

※1　野田工場、須賀川工場、藤沢工場の合計
※2　いわき工場は2024年1月に太陽光発電や新設備導入の新工場稼働の為、2024年度目標は排出量や使用量の把握とした
※3　野田工場、いわき工場、藤沢工場の合計
※4　須賀川工場は2023年12月より社有車の１台を軽油使用車へ切り替えたため、2024年度の目標は使用量把握とした
※5　野田工場のみフォークリフトでLPGガスを使用しているため原単位把握を行う
　　（他工場はガス給湯器でのみ使用しているため原単位把握を行わない）

〔各工場で使用する電力の排出係数〕

・野田工場　：　0.601kg-CO2/kWh　（北海道電力㈱令和2年度調整後排出係数）
・いわき工場　：　0.488kg-CO2/kWh　（東北電力㈱令和3年度調整後排出係数）
・須賀川工場　：　0.488kg-CO2/kWh　（東北電力㈱令和4年度調整後排出係数）
・藤沢工場　：　0.441kg-CO2/kWh　（東京電力ｴﾅｼﾞｰﾊﾟｰﾄﾅｰ㈱令和2年度調整後排出係数）

環境経営活動計画の実績

2025年度以降は×△を○にすべく取り組んで行きます。

◎よくできた　○まあまあできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

環境経営方針	活動テーマ	環境活動実施内容	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素削減					
	実施内容	不必要な照明の消灯	○	○	○	○
		太陽光発電の有効活用	－	○	－	－
		空調の適温化/適度使用	○	○	○	○
		空調機フィルター定期的清掃	○	○	○	○
		生産工程の最適化	○	○	○	○
		PC電源一括コントロール	△	－	－	－
	中期計画	LED照明への更新	○	○	○	△
		省エネタイプエアコンへの更新	○	○	○	○
	自動車燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	エコドライブ等運転方法の配慮	○	○	○	○
	中期計画	車両更新時低燃費車選択	○	○	○	○
		運転チェックシート導入	○	○	○	○
	その他燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	フォークリフトの適正使用	○	－	－	－
		給湯器の適正利用	－	－	○	－
		防寒対策による灯油の適正使用	○	－	○	－
	中期計画	フォークリフトのバッテリー化への切替	○	－	－	－
		省ｴﾈﾀｲﾌﾟのｴｱｺﾝへ更新し灯油の使用削減	○	○	○	－
産業物削減	一般廃棄物の削減					
	実施内容	印刷物部数が最小になるよう考慮	○	○	○	○
		社内用印刷物の両面使用	○	○	○	○
		社内用文書の裏紙活用	○	○	○	○
		文書の電子化によるペーパーレス化促進	△	△	△	△
	中期計画	分別回収ボックスの適正配置	○	○	○	○
		納品の際の梱包、包装資材等の削減	○	○	○	○
		ペーパーレスFAXシステム導入	×	×	×	×
	産業廃棄物削減					
	実施内容	不良在庫防止の徹底	○	○	○	○
		作業ミスによる廃棄量の削減	○	○	○	○
	中期計画	塗料や洗浄剤等のタンク集約化	○	○	△	－
		水質汚濁法令基準より厳しい自主管理基準設定	○	○	○	○
水使用量削減	水道水の削減					
	実施内容	日常的な節水の励行	○	○	○	○
		生産工程において節水の励行	○	○	○	－
	中期計画	生産工程で使用する水の再利用	○	○	○	－
		バブルの調整による水量・水圧の調節	○	○	○	○
		雨水利用	×	×	×	－
化学物質削減	有害化学物質の適切な管理					
	実施内容	使用化学物質の把握	○	○	○	○
	中期計画	代替物質への切り替え	×	×	×	×
グリーン購入	グリーン購入の推進					
	実施内容	事務用品のグリーン購入	○	○	○	○
環境配慮	製品への環境配慮					
	実施内容	FSC製品販売促進	○	○	○	○
		PRTR物質の削減、代替	×	×	×	×
	中期計画	環境配慮製品の販売目標設定、計画的販売促進	○	○	○	○

当社の活動とSDGsとの関連性

人を、社会を、地球を、もっと、ずっと笑顔に

加藤段ボールでは、お客さまのニーズから開発した製品やサービスで、さまざまな課題に応えてきたように、社会や環境の課題にもまっすぐに取り組んでいきたい。これからも、時代とともに変化するさまざまな問題をしっかりと見極めながら、持続可能な社会の実現に貢献していきます。
原料調達から、分別・回収・リサイクルの工程全てにおいて、ＳＤＧｓの達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

温室効果ガス排出量削減	電力使用量の削減
	ガソリン使用量の削減
	軽油使用量の削減
	LPG使用量の削減
	灯油使用量の削減
	産業廃棄物排出量削減
	水道水使用量の削減
	グリーン購入の推進
	製品への環境配慮
	FSC®森林認証
	年次有給休暇の取得率向上
	男性社員の育休取得促進
	ハラスメント相談窓口の設置
	安全衛生パトロールの実施

環境への取り組み

FSC®森林認証

加藤段ボールはFSC®森林認証を取得しています。

FSC森林認証とは、森林管理認証を受けた森林から収穫された木材を認証基準に従い適切に管理、加工、流通していることを認証する制度です。
加藤段ボールは森林資源の保護、地球環境負荷の低減に積極的に取組み、認証マークを付けた地球環境にやさしい製品をお届けいたします。

認証詳細	
認証取得会社	加藤段ボール株式会社
認証範囲	全工場
認証対象主要製品	段ボール板紙および段ボール製品
FSC認証種別	FSC/COC認証
認証番号	SGSHK-COC-350118
認証取得日	2017年3月7日
審査機関	SGSジャパン株式会社

責任ある森林管理のマーク

ちばSDGsパートナー登録制度

加藤段ボールは「ちばSDGsパートナー登録制度」に登録されました。

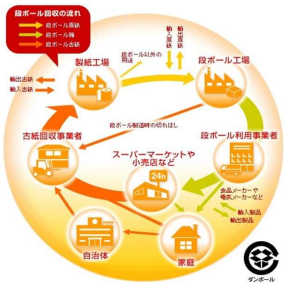
SDGs推進に取り組む他企業や様々な団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進めます。

【主な取り組み内容】
・エコアクション21環境経営を進め、環境に配慮した経営を進めます。
・事業者から排出された廃棄物の適正処理に努めます。
・取引事業者様へSDGsを知ってもらえるよう、普及啓発に取り組みます。

環境保護への取り組み

リサイクル

主力製品である段ボール製品は環境優等生です。段ボール製品の材料である紙（段ボール原紙）の古紙含有率は90%以上となっています。
当社は、段ボールの製造工程から出る切れ端は一か所に集め、ブロック型に圧縮して古紙業者へ引き渡しています。
そして、専門業者によって、段ボール古紙は、国内外の段ボール原紙の主原料に利用されています。



排水処理

段ボールの製造に使用した排水をきれいにして自然に還すために、廃液処理設備を完備しています。

省エネルギー化

企業として地球温暖化防止に貢献できること。当社ではCO2排出削減にむけて、さまざまな取り組みを行っています。

バッテリーリフト

ハイブリットカー

LED照明（いわき工場休憩室）

社会貢献活動

アビリンピック

千葉県障害者技能競技大会　アビリンピック千葉　製品パッキングにて、競技課題の設計・競技資材の提供、当日大会審査員、補佐員の派遣をしています。

いわき市と協定

2020年11月26日、いわき市と当社いわき工場において「災害時等における物資の供給協力に関する協定」を締結しました。
当協定は、避難者の負担等を軽減し、避難所生活の環境整備を図ることを目的としております。

野田市とのパーテーション協同開発

2020年に新型コロナウイルス感染症対策の一環として、野田市とパーテーション協同開発を行いました。
避難所での新型コロナウイルスの感染拡大防止とプライバシー確保を目的として、学校体育館などの避難所で使用する段ボール製パーテーション2,100セットを配備しました。

近郊清掃活動

地域環境を守る活動の一環として、定期的に向上周辺の地域清掃の活動にとりくんでいます。清掃活動を通して、地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、美しい環境づくりに努めています。

環境関連法規

■は該当部門

法規制等の名称		該当する要求事項	該当する設備・項目	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
基本・一般	環境基本法		–	■	■	■	■
	地球温暖化対策の推進に関する法律	・事業者の責務（温室効果ガスの排の抑制に努める）	–	■	■	■	■
大気	Nox・PM法	・対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	・運搬車	■	–	–	–
	フロン排出抑制法	・空調機7.5kW以下の簡易点検	・ｴｱｺﾝ(ｽﾎﾟｯﾄ含む)	■	■	■	■
水質	浄化槽法	・使用届	・浄化槽	■	■	■	–
		・定期水質検査		■	■	■	–
	水質汚濁防止法	・工場排水（特定施設）	・排水処理施設	■	■	■	–
騒音	騒音規制法	・特定施設の事前届出	・印刷機械 ・ﾌﾟﾗﾃﾝ(機械ﾌﾟﾚｽ)	■	■	–	–
		・地域別規制基準の遵守		■	–	–	–
振動	振動規制法	・特定施設の事前届出	・印刷機械	■	–	–	–
廃棄物	廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	・一般廃棄物(紙くず、繊維くず、生ごみなど)	■	■	■	■
		・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	・産業廃棄物(金属類・廃ﾌﾟﾗ類・廃ｶﾞﾗｽ・廃油・木製ﾊﾟﾚｯﾄ)	■	■	■	■
		・マニフェスト交付 B2・D票90日、E票180日以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告 A、B2、D、E票の保管（5年間）		■	■	■	■
		・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		■	■	■	■
ｸﾞﾘｰﾝ購入	グリーン購入法	・できる限り環境物品等を選択するよう努める	購入品・調達品	■	■	■	■
			購入先・外注先	■	■	■	■
容器包装ﾘｻｲｸﾙ	容器包装ﾘｻｲｸﾙ法	・再商品化義務	容器の利用	■	■	■	■
化学物資	化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取・発行	第2種指定化学物質(134物質)も対象	■	■	■	■

2024 年度の野田工場、いわき工場、須賀川工場、藤沢工場での環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去 3 年間ありませんでした。又、周辺地域住民からの苦情等もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	なし	削減できるムダが多数あるように思えます。 具体的な改善策を立て実行してください。
環境経営目標	なし	目標が達成できるよう取組を考えてください。
環境経営活動計画	なし	未達項目については計画をたて取り組んでください。
実施体制	なし	各組織で連携を取り合いながら活動を進めてください。

全体評価コメント

いわき工場は新工場が稼働してから１年が経ち、2025年度からは2024年度の実績を基に目標設定することになりますが、太陽光発電（自家消費）の比重を増やし、買電量の縮小となるようお願いいたします。
一般廃棄物は、主に事務所での意識改革が必要です。
産業廃棄物（ラップ）については、軽量化の観点から薄物化の検討、及び、ラップ巻き以外の荷物固定方法ができないか検討することも視野に入れて活動を進めてください。
水道水は生産量＝インキ・印版洗浄との関係もありますが、水資源の有効利用の観点から、印版洗浄のノズルや手洗い蛇口の検討を行って頂きますようお願いいたします。
2025年度は、改善するための意識改革に取り組んでください。